

1 梨の生育状況

梨の結実は、いずれの品種も平年並み（一部でやや不良）となっています。また、結実後の低温等の影響により、果実の初期肥大はやや緩慢です。

黒星病の果実や葉への発生は、芽基部病斑が原因と思われ、昨年同時期と比較して「幸水」（果梗や果そう葉）で多い状況です。

虫害は、5月10日頃よりハマキムシの発生が目立っており、また、ニセナシサビダニの発生（右写真：被害果）も多い状況です。



2 黒星病の発生状況

①果実、葉等の発病状況

5月16日の発病状況調査結果では、昨年と比較し、果実、葉への発病は「幸水」で多く、「豊水」で少ない状況です。（発生程度は、地域・園地でばらつきが大きい）

表 H30年 黒星病発生状況(調査日:5月16日)

品種名	調査園地数	発病 果そう率 (%)	部位別発病率			
			果実 (%)	果梗 (%)	果そう葉 葉 (%)	葉柄 (%)
幸水	68	7.4	1.0	2.3	0.2	3.4
豊水	27	7.8	1.7	1.5	0.3	3.0
新高	14	1.4	0.2	0.5	0.0	0.7
あきづき	4	2.5	0.0	0.5	1.5	1.5
合計・平均	113	6.5	1.1	1.8	0.2	2.9

【昨年同時期】

表 H29黒星病発生状況(調査日:5月17日)

品種名	調査園地数	発病 果そう率 (%)	部位別発病率			
			果実 (%)	果梗 (%)	果そう葉 葉 (%)	葉柄 (%)
幸水	68	3.1	2.6	0.5	0.1	0.1
豊水	27	12.4	9.8	2.1	0.1	1.9
新高	14	1.1	0.7	0.3	0.0	0.1
あきづき	4	3.5	2.5	1.0	0.0	0.0
合計・平均	113	5.1	4.1	0.9	0.1	0.5

◆発生要因について（感染源の多少、気象データにより感染リスク）

① 1次感染源・落葉からの胞子累積補足数 コ/cm²

	モニタリング調査	落葉処理園地
H30	5.4	0.1
H29	214	0.3
H28	36	1.7

※補足数は、3/27~5/16 までの累積

② 1次感染源・芽基部病斑の発生率 (%)

	「幸水」芽基部病斑発生率
H30	9.6
H29	3.6
H28	0.5

③ 気象データ解析による感染危険度発生状況

	感染危険発生日数(日)	感染危険度(指数)
H30	15	4.7
H29	9	3.3
H28	5	3.8

※対象期間は、4/10~5/16

◎ 1次感染源のうち、落葉からの胞子飛散は極少
◎ もう一つの感染源・芽基部病斑は多く、多雨により感染しやすい日も多かったことから
「幸水」で罹病果実・葉が発生

☆重要☆：

●落葉からの子のう胞子の飛散は依然、少ない状況ですが、今後の感染の原因は、芽基部病斑や発病している果実や葉からの胞子飛散です。

●これらを放置すると、降雨のたびに感染が広がる恐れがありますので、見つけ次第、速やかに除去し園地外で処分してください。

●現在、比較的黒星病に感染しにくい生育ステージですが、6月末から再び「幸水」の果実に感染しやすい時期となります。

7月の発病を抑えるためには、6月末までにしっかり罹病果実、葉を取りきることが極めて重要です！！

3 これからの防除について

☆防除は「降雨前」、SSは「低圧、低速、全列走行」を心掛けましょう

回数	散布月日	薬剤名と濃度	散布量	主な対象病害虫	防除実施日
8	5月21日～23日	ベルコートフロアブル 1,500倍 ファルコンフロアブル 6,000倍	300ℓ	黒星病、輪紋病 ハマキムシ類、ケムシ類	
9	5月30日～6月1日	オキシラン水和剤 600倍 アプロードフロアブル 1,000倍	300ℓ	黒星病、輪紋病 カイガラムシ類幼虫	
10	6月8日～10日	キャプレート水和剤 600倍 スプラサイド水和剤 1,500倍	300ℓ	黒星病、輪紋病 シンクイムシ類、アブラムシ類 カメムシ類、クワコナカイガラムシ	
11	6月17日～19日	オキシラン水和剤 600倍 サムコルフロアブル 10 5,000倍	300ℓ	黒星病、輪紋病 シンクイムシ類、ハマキムシ類、ケムシ類	
12	6月22日～24日	ダニゲッターフロアブル 2,000倍	400ℓ	ハダニ類、ニセザシバダニ類	
<p>●殺ダニ剤の効果を十分発揮させるため、他の殺菌剤、殺虫剤と混用せず、単独散布してください</p> <p>●散布前には必ず草刈りを実施しましょう</p>					

【注意】

- ① 【11回目】から【12回目】の間隔が5日間となるので注意する。
- ② 【12回目】ダニゲッターフロアブルは、「遅効性」であるため、ハダニの密度が高まる前に散布する。
(ハダニ類の発生が早い場合は、アカリタッチ乳剤(2,000倍)を散布し、密度低下を図ってから「ダニゲッターフロアブル」を使用する。)

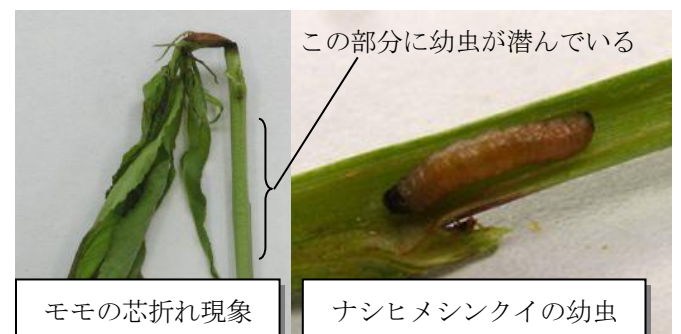
4 害虫対策について

●ナシヒメシンクイの耕種的防除対策

梨園に隣接するウメ、モモの新梢先端が折れて萎れている「芯折れ」が見られる場合には、これを切り取って処分して下さい。

●ハマキムシ類及びシンクイムシ類対策に

コンフューザーNの設置を！



5 摘果作業について

仕上げ摘果は6月12～15日（満開60日後）を終了の目安に！

摘果作業は、果実の大きさ、形、果軸の太さ、果実の向き（上向き果や重度なサビダニの被害果は軸折れの恐れ！）等を考慮して進めましょう。

仕上げ摘果時の着果量(目安)

品種名	1㎡当たりの着果量	側枝長当たり(100～120cm)	1樹当たりの着果量(3間植の場合)
幸水	10～11果	5～6個	290～320果/樹
豊水	11～12果	6～7個	320～350果/樹
あきづき	11～12果	6～7個	320～350果/樹
新高	9～10果	4～5個	260～290果/樹